

UVインキ

UV Lカートン シリーズ

ポリエチレンコート紙・一般厚紙に多く印刷されている低臭タイプのカルトン用UVインキです。飲料水容器・食品包装容器・化粧品箱等多くに利用されています。UVインキの中では水幅があり、安定した印刷ができます。

■ 特徴

- ▶ 水幅が広い。
- ▶ UV硬化性が良好で耐摩擦性、耐溶剤性などの諸耐性に優れている。
- ▶ 低臭・低刺激タイプ。

■ 一般性状

	タック値	フロー値
黄	6.1 ± 0.2	35 ± 2
紅	5.7 ± 0.2	37 ± 2
藍	6.2 ± 0.2	35 ± 2
墨	6.2 ± 0.2	37 ± 2

※タック値：インコメーター(水温:38°C、400rpm、1分値)

※フロー値：スプレッドメーター(室温:25°C、1分後の拡がり直径(mm))

■ プロセス色の耐性

	耐光性 濃色(淡色)	耐熱性	耐石けん性	耐溶剤性
黄	4(3)	4	5	5
紅	4~5*(3*)	4	2	4
藍	8(7)	2	5	5
墨	7(4)	5	2	2

* 水に濡れた状態では、耐光性が極端に悪くなります。

※評価:耐光性 8(優)⇔1(劣), その他:5(優)⇔1(劣)

〈試験方法〉

耐光性…印刷物をフェードメーターにて照射試験し、暴露時間と変褪色の程度により強度を8段階に分級。

希釈しない濃色とメジウムで5倍に希釈した淡色を試験する。

耐熱性…印刷物を150°Cの熱風循環式乾燥機中で10分間加熱し、変褪色の程度により強度を5段階に分級。

耐石けん性…印刷物を10%の石けんゲルに20~25°Cで1時間附着し、変褪色の程度および石けんゲルへのブリードの程度により強度を5段階に分級。

耐溶剤性…印刷物をトルエンとアセトンの1:1混合液に20~25°Cで24時間浸し、変褪色および混合液へのブリードの程度により強度を5段階に分級。

- ▶ 記載のデータは、当社の試験方法による実測値であり、規格値ではありません。ご使用に際しては、貴社使用条件に適合するかを必ずご確認ください。なお、本文中の用途はいかなる特許に抵触しないことを保証するものではありません。
- ▶ 製品改良のため、予告なく内容を変更することがあります。
- ▶ 製品使用の際は、必ず事前に安全データシート(SDS)をご一読願います。

■ 使用上の注意

- ▶ 非吸収原反へ印刷した印刷物が屋外もしくは水(結露を含む)のかかる環境に置かれた場合、接着力が低下して爪などによって簡単に剥がれることがありますので、ご確認願います。
- ▶ 墨インキは補色に耐性の弱いアルカリブルートナーを使用しています。PP貼りなどの印刷後加工を行なう場合やレトリート加工等の必要物性は事前に必ず予備試験を行い、適性をご確認ください。耐性が必要な場合には別途“UV カートン GE 墨 KW-M”をご用命ください。
- ▶ インキ盛り過ぎやランプの劣化により、硬化不良・密着不良が発生する可能性がありますので、ご注意ください。
- ▶ 助剤・洗浄剤・版材については、UVインキ用のものをご使用下さい。
- ▶ 火気に注意し、作業場は十分に換気し、紫外線や直射日光を避けて取り扱って下さい。吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れない様に適切な保護具を着用下さい。衣類等に付着した場合は、直ちにその汚れを落とし着替えて、汚れ部分が長時間接触することを避けてください。取り扱い後は、手洗いとうがいを十分に行ってください。
- ▶ 目に入った場合、直ちに多量の水で15分間以上洗い流し、眼科医の手当を受けてください。皮膚に付着した際は、汚染衣服や靴等の汚れを落とした後、付着部または接触部を石鹼水で洗浄し、多量の水を用いて洗い流してください。もし、皮膚に炎症やかゆみを生じた場合には、直ちに医師の手当を受けてください。
- ▶ 本製品を御使用の際には、事前に安全データシート(SDS)を良くお読みください。



2022/1/21 No.W-4

- ▶ 記載のデータは、当社の試験方法による実測値であり、規格値ではありません。ご使用に際しては、貴社使用条件に適合するかを必ずご確認願います。なお、本文中の用途はいかなる特許に抵触しないことを保証するものではありません。
- ▶ 製品改良のため、予告なく内容を変更することがあります。
- ▶ 製品使用の際は、必ず事前に安全データシート(SDS)をご一読願います。